古記録にみえる

長崎街道・山家宿の名勝（2）

■ 船頭木の大楠

ＪＲ筑前山家駅から北西240ｍほどの所に、山家九区の公民館があります。むかしその公民館の敷地内に、大楠がありました。

『筑前国続風土記拾遺』に「驛西船頭木といふ處に大樟(楠)樹有。心空し。其内三間に四間斗有。」とあります。

また、ケンペルの『江戸参府旅行日記』に「山家の手前に一本のクスノキがあり、われわれが見たもののうちで四番目の並はずれた大木であった」と記しています。

奥村玉蘭著『筑前名所図会』には、この大楠が明瞭に描かれています。楠の空洞で何者かが焚火をして焼失し、今では楠の大樹を見ることができないのは残念です。山家宝満宮末社である宇賀神社の社は、この船頭木の大楠の枝をくりぬいて作られています。宝満宮拝殿に「神徳」の扁額が掲げられていますが、その材も大楠の一部です。楠材の一部は地元の人々にも配分されたようで、扁額や大きな一枚板の板戸とされ、現在に伝わっています。

『筑前名所図会』にみえる大楠（左はし）

大楠の一部でできた山家宝満宮拝殿の扁額

船頭木の大楠の一部で作られた山家宝満宮の末社宇賀神社

民家に伝わる楠材の扁額
「一樹能く森を成し雲を呼び瑞雲を看る」
宮小路康文の筆

茶釜石

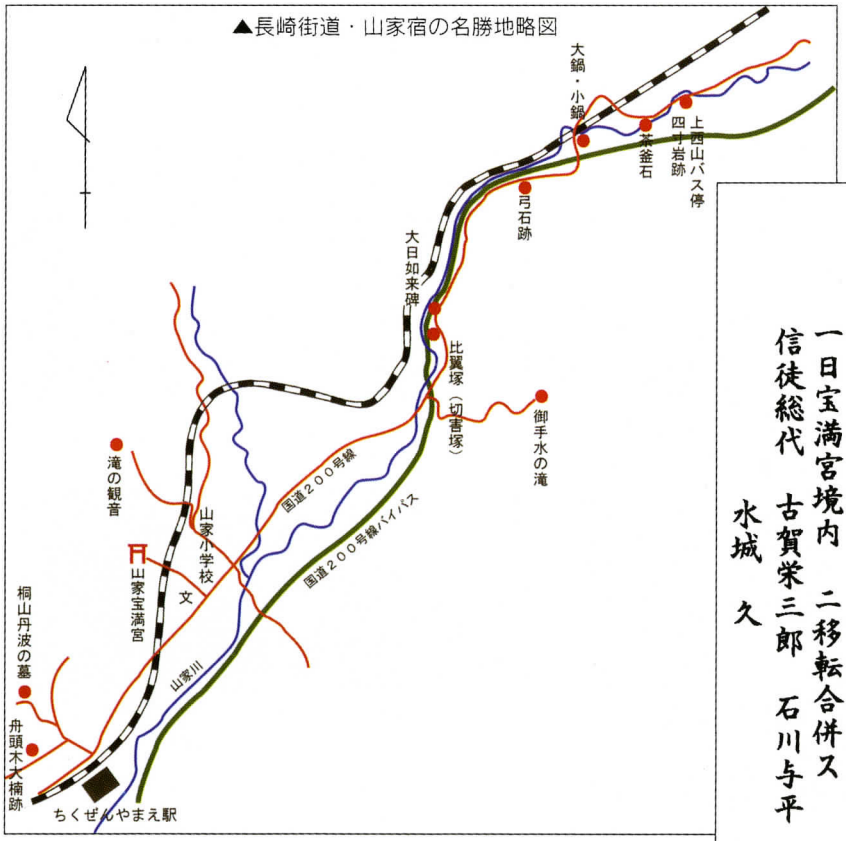
■ 茶釜石

JR筑前山家駅前からバスに乗り、上西山で下車して約315m後戻りするとカーブがあります。そこの道路左側に茶釜に似た大石があります。土地の人は、これを茶釜石と言っています。

『筑前国続風土記附録』に「冷水嶺に四寸岩と云あり。又驛の北二十五町餘に弓石とて高八尺餘、横一丈餘の岩あり。石面に弓に弦を開たることき文理あり。又茶釜石と云有り。」

『筑前国続風土記拾遺』には「枝郷両西山上下の間を鍋峠といふ。其邊の川流往還より直下所々に在。本編に詳なり。又茶釜石、四寸岩 上西山 弓石 下西山石面に弓形の紋理有。なといふ。奇石道の側にあり。」と簡単に書かれています。以前は、山家宿方向に向かって道路右側の高い所にありましたが、大演習（年代不詳）前に工兵が来てカーブを緩くした際、この大石を現在の所に落したと伝えられています。また、別に道路拡幅の際、危険なので現在地に移したという説もあります。　（水城泰年）

▲長崎街道・山家宿の名勝地略図



宇賀神社

明治三　庚午五月吉日

社掌　鶴崎尚　区長　高田千代吉
元山家村字船頭木に大楠神社
トシテ祭祀アリシヲ大正二年五月
一日宝満宮境内　二移転合併ス
信徒総代　古賀栄三郎　石川与平
水城　久

2006. 3.31. 発行
2012. 3.22. 第2刷 発行